

多種多様なカメムシ

秦野ビジターセンター



アカスジキンカメムシ (左の写真は羽化直後)



アブを捕まえたシマサシガメ



卵を保護するエサキモンキツノカメムシ



茎に口吻を刺すホシハラヒロヘリカメムシ

5月下旬、葉の上で羽化してまもないアカスジキンカメムシを見つけました。薄くぼんやりとした体の色はやがて光沢のある緑となり、赤い筋が現れ鮮やかなカメムシになります。

カメムシといえば「くさい虫」で知られるように嫌われ者ですが、それだけ身近な虫でもあります。カメムシの多くは植物の葉や茎、果実などに細長い口吻(こうぶん。ストロー状に伸びた口)を刺し、汁を吸って食物としていますが、中には他の昆虫を捕まえ体液を吸う捕食性のものや、キノコなどを好む菌食性のカメムシもあります。また卵を抱えるようにして外敵から守るもの、地表や土の中で暮らすカメムシなど、種類も多く姿や形が多様で生態もさまざま。なかなか興味深い虫です。見つけたらちょっと近づいて観察してみてもいいでしょうか。

もう一つ、「くさいにおい」は身を守るために出すものなので、刺激を与えなければ大丈夫! (執筆:石川)

【新型コロナウイルス感染症対策に関するご注意とお願い】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各施設をご利用いただく際は、手指の消毒の徹底・マスクの着用をお願いするとともに、展示室の人数制限をさせていただく場合があります。



箱根ビジターセンター、秦野ビジターセンター、西丹沢ビジターセンターのFacebookページ公開中! 最新の情報をご覧ください。

自然公園へでかけよう



環境省箱根ビジターセンター
Hakone Visitor Center
〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根 164
Tel 0460-84-9981
<http://hakonevc.sunnyday.jp/>

県立秦野ビジターセンター
Hadano Visitor Center
〒259-1304 秦野市堀山下 1513
Tel 0463-87-9300
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawavc/>

県立西丹沢ビジターセンター
(旧西丹沢自然教室)
Nishi-Tanzawa Visitor Center
〒258-0201 足柄上郡山北町中川 867-2-9
Tel 0465-78-3940
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawavc/>
開館日、開館時間、イベント予定等は各ビジターセンターまでお問合せください。

箱根登山電車沿線の見どころ

箱根ビジターセンター

箱根は自然や温泉、数多くの歴史的遺産など多彩な観光資源に恵まれた、日本を代表する観光地です。そこで、車窓から箱根の四季折々の風景等を僅か40分で観られる箱根登山電車の沿線を紹介いたします。箱根登山電車とは、始発駅・小田原駅(小田原市)から終点・強羅駅(箱根町)までの高低差527mを、途中3カ所のスイッチバックを繰り返しながら一気に駆け上がる世界有数の山岳鉄道で、箱根町内では始発から4駅目の箱根湯本駅から強羅駅までを走ります。6月中旬～7月中旬には沿線に植えられた紫陽花の鑑賞ができる「あじさい電車」としても人気です。

箱根湯本駅を出発すると、すぐ眼下に温泉街の風景が広がり、次の塔ノ沢駅では、ホーム横に祀られた「深沢銭洗弁財天(湧き水で硬貨を洗ってご利益が?)」があります。そしてトンネルをぬけた先の早川にかかる鉄橋、通称「出山の鉄橋(高さ43m、長さ60.96m)」では深い森と渓谷を一望でき(秋には紅葉が抜群)、スイッチバックでは、ホームでの運転手と車掌の交代シーン、大平台駅ではホーム脇の枝垂桜を見られます。上大平台信号場では、晴れた日には相模湾を一望で

きる他、R30(最小曲線半径30m)の急カーブを体感出来ます。宮ノ下駅は最も紫陽花の株数が多い駅として、開花する初夏には記念撮影スポットとして大人気です。さらに、小涌谷駅には箱根駅伝時の踏切通過シーンのスポット、彫刻の森駅では、屋外彫刻が見られるスポットがあり、終着駅では山小屋風の駅舎が出迎えます。このように、四季折々、様々な見どころを楽しめます。(執筆:長田)



丹沢湖

西丹沢ビジターセンター

山北町の中央に位置し、丹沢大山国定公園に囲まれた西丹沢の入り口にある美しい湖が「丹沢湖」。湖畔からは四季折々の自然、富士山の雄姿などが楽しみ、全国ダム湖百選やかながわの景勝50選にも選定されています。

丹沢湖は、酒匂川水系の河内川に建設された三保ダムによって、昭和53年に誕生した人造湖で、宮ヶ瀬湖などと共に神奈川県民を支える水がめとなっています。丹沢湖には3つの支流から水が流れ込んでおり、その水源となっているのは、丹沢登山の目的地である主脈、主稜の山々です。1つ目は、鍋割山・塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳・檜洞丸を水源とし、ユースン渓谷を造り出した「玄倉川」、2つ目は、檜洞丸・大室山・畦ヶ丸を水源とし、西丹沢ビジターセンター

や箒杉沿いを流れる「中川川」、そして3つ目は、畦ヶ丸・菰釣山・三国山を水源とし国有林内を流れる世附川です。いずれも透明度が高い清流で、丹沢の豊かな自然を感じさせてくれます。この丹沢湖の水は、酒匂川下流の飯泉取水施設から横浜市や川崎市など県内各所に供給されています。いつも飲んでいる水道水も、丹沢湖の水かもしれませんね。

5月は湖畔の山並みの新緑がまぶしく、丹沢湖の青い水との色のコントラストが目を楽しませてくれ、散策やサイクリングに最適な時期です。また、焼津ボート乗り場からボートを借りて湖に漕ぎ出してみるのもお勧めです。湖上では西丹沢の山並み、湖に注ぐ数多くの小さな沢や木々などが目に飛び込んできます。丹沢湖で西丹沢の自然をゆっくりと感じるのはいかがでしょうか?(執筆:澤田)

